

7/23/91. 潘

NOCCN年版「防衛白書」を報じ  
しました。白紙のタイアップ式を  
載せた別冊で、「平和を生む『抑  
止力』」と大見出しを付け、日本  
自衛の軍事体制と日米同盟の強化  
を行わせているのが大きな特徴  
です。白書では「相手国のミサイル  
発射拠点などをたたくため、政府  
が保有を検討していく『反撃能力』」  
（敵基地攻撃能力）について初めて  
語記しました。しかし、「軍事対  
軍事」という「抑止力」での対応  
は、軍拡競争の危険なエスカレー  
トを招きます。「平和を生む」方  
しかた、それと逆行するのです。

主張

22年版防衛白書

て「核・ミサイル戦力や海上・航空戦力を中心に、軍事力の實・靈を急速に強化しており、強く懸念され  
る」と述べています。ロシアによるウクライナ侵略に触れ、「Uのよな力による一方的  
な現状変更の影響が、インド太平洋地域にも及ぶことが懸念され

軍事体制の問題化の具体化して、焦慮の課題になってくるのが、「反撃能力」の保有です。田中が、岸田文雄首相が今年1月、新たに「国家安全保障戦略」、「防衛計画の大綱」、「中期防衛力整備計画」を策定すると発表したのを受け、防衛省が防衛相を

「力対力」では平和を生まない

しかば、故郷は  
方で「平生から忠誠」

で、NATOの軍事費もNATOの目標を念頭に軍事費を大幅に増額すべきだとする議題

「」と腰掛けて坐る。  
「おひた」「敵は今安寧保護隊だ  
にねじて、我が國を攻撃かねど日本  
もど半蔵を勧め出すたれど豈能  
なるか『無止力』だと」「わが國  
固有地の防衛体制の強化」と「日  
米同盟の強化」を進めてくると論  
調してくるのは重大ですが。

党的主張に賛成するものです。日本が「敵襲犯攻撃能力」の保有や軍事費増など軍拡を推進すれば相手もやむを得ない軍拡で必至の「安全保障のシナリオ」と離れたことは明白です。「力対力」では平和はつくれないと教訓こそ、東アジアで生かすことが必要です。

再編体制と同調強化の具体化をして焦眉の課題になっていくのが、「反撃能力」の保有です。

を「抑止力」と表現する。これは、  
機動首相の答弁で正調化された  
はである。